



ご注意ください

強引な布団の訪問販売に注意

◆問い合わせ◆役場産業振興課商工労働係 ☎85-4806

に同席してもらおうようにしましょう。必要なければきっぱりと断ることが大切です。

○家族や周囲の人も、高齢者の家に不審な訪問者が来ていないか、家の中に不要な品物や契約書がないかなど、日ごろから気を配りましょう。

○契約しても、クーリング・オフや契約の取り消しができる場合があります。

よく分からない場合は、早めにお住まいの自治体の消費生活センターなどにご相談ください。

【消費者ホットライン 188】

～誘いに乗らない、申し込まないことが肝心～

- 消費者ホットライン ☎0570-064-370
- 旭川市消費生活センター☎0166-22-8228

すぐに消費生活センターに相談しましょう

ぴっぷ消費生活 ニュース

ひとりひとりが 気をつけよう

◆◆事例◆◆

突然「布団を見せてほしい」と女性が訪問し、家上がり「汚れているし体に悪いので新しく購入したほうがいい」としつこく勧めてきた。断って帰ってもらったが、しばらくして男性と一緒に羽毛布団を持ってきた。断っても「ひと月1万円の支払いだから大丈夫」などと勧誘され、根負けして承諾してしまった。クレジット会社の書類を書くときに初めて、総額が約40万円と高額であることを知った。解約したい。(当事者：70歳代 男性)

◆◆消費者へのアドバイス◆◆

○強引に高額な契約をさせられる布団の訪問販売の相談が後を絶ちません。ドアを開ける前に訪問者や用件をよく確認し、必要なければきっぱり断り、事業者を家の中に入れないことが大切です。

○一人では対応せず、家族や近所の人など周囲の人

きたよん通信

発達障がいについて②

「広汎性発達障がい(自閉症スペクトラム)とは…」

自閉症や自閉症に似た特性を持つ障がいの総称。『対人関係の障がい』『コミュニケーションの障がい』『興味や活動の偏り』をベースに軽度なもののから重度のものまで、ひとつながりの発達障がいであることを表しています。

「アスペルガー症候群」

広い意味での「自閉症」に含まれる1つのタイプ。幼年期に言語発達の遅れがなく、障がいがあることがわかりにくいのですが、成長とともに不器用さがはっきりします。

発達障がいの分類や名称は、教育や福祉、医療、行政等の立場の違いによって使い方が違ったり、時代によって変化することもあります。

- 上川中部基幹相談支援センター「きたよん」当麻町3条東2丁目11番1号(当麻町役場庁舎内) ☎84-7111
- 虐待防止センター専用電話 ☎84-7222

障がいのある方や家族が集い交流できる「きたよんサロン」を月1回開催しています。▼日時：9月16日15時30分～▼場所：福祉会館第4研修室▼問い合わせ：保健福祉課福祉係・上川中部基幹相談支援センター「きたよん」



雑賀雄太 (さいかゆうた) 比布町の地域おこし協力隊として勤務。日々の出来事や業務に関わるお知らせをSNSで発信しています。ぜひご覧ください。



空き家・空き地の流動化に向けての取り組みがスタートし、約半年が過ぎました。取り組みの中で、徐々に心境の変化が起こってきましたので、本号ではその心境の変化を記録として綴らせていただきます。

空き家・空き地の多さに 圧倒される日々

空き家・空き地の現地調査を開始したときの気持ちを今振り返ってみると、どちらかと言えばネガティブな感情に支配されていたというのが正直なところ。今まで空き家や空き地のことを何も意識せずに生活していました。しかし、調査を実際に進めていく中で空き家・空き地のその多さに圧倒され、この問題の大きさに大きな戸惑いを感じました。

コロナ禍で見えてきた 都会の脆弱性と地方の強靭性

こうした日々は全世界で感染が拡大し、経済に大きなダメージを与えるだけではなく人命を奪うまでに猛威を奮つた。コロナ禍の真っ只中で過ぎていきました。そんな中で『何でも揃う便利な都会』というイメージは完全に覆され、逆に『安全で安心して生活できる地方』といったイメージが日本中に一気に広がってきたのではないかと思います。また、新型コロナウイルスの感染拡大によって「ソーシャルディスタンス」「リモートワーク」「ZOOM」といったこれまで馴染みのなかったキーワードや無料で利用できるテクノロジが広く世間に知られるようになりました。

未来資産を大切に 必要な人に巡らす視点

コロナ禍による全世界的・劇的な変動によって『ぴっぷ町に住むことの価値』というのは劇的に高まること予測されます。現在のところ、隣接する旭川市などと比較すると地価は安価ですが、今後その価値は高まる可能性が高いと私は考えています。ネガティブな文脈で語られがちな空き家・空き地ですが、見方を変えるとそれは『負債ではなく資産』です。今ある資産を適切かつ大切に管理し、本来に必要な人々に巡らすという視点をもち、引き続き空き家・空き地の流動化に取り組んでいきます。

いい人 見つけた



プロフィール 昭和54年生まれ。スポーツ医療の現場やトレーナーとして、第一線の選手をサポート。常に選手を考え、自身も様々なものにチャレンジ。

8月1日付で、新たに1名を比布町地域おこし協力隊に任命しました。名前は藤本隆靖さん。札幌出身の藤本さんは、これまで整形外科の立ち上げや、山岳を駆けるスカイランニングユースナショナルチームトレーナーとして活躍され、さらにプロバレーボールチームヴォレアス北海道のチームトレーナーとして活動しています。 そうした経験を生かし、藤本さんは地域おこし協力隊として主に「運動と食による脳の活性化」事業に取り組みます。本事業は、運動・食を通して、全町民が生涯にわたり健康的な生活を送れることを目指すもので、そのために必要な運動プログラムを科学的根拠に基づき作成します。 「人の潜在能力を引き出すのが楽しい」と語る藤本さん。数多くのアスリートの活躍を支えてきた実績は本物です。 こうした経験を町の事業に生かしていくことが今後の目標で、「健康であることでできる『当たり前』を増やしていきたい。健康で快適な暮らしを作っていきましょう！」と意気込みを語りました。